

いちご新品種「とちあいか」の夜冷処理における生産性・収益性の検証

要約

普通夜冷育苗の10a当たり収量は7,510kg/10aで、ポット育苗の7,012kgよりも7%多収となり、10a当たりの販売金額についてもポット育苗より6%多かったことから、生産性および収益性が認められた。

○ 展示のねらい

いちご新品種「とちあいか」は、早生性で病害に強く多収が望まれるため、普及推進に向けた河内地方における栽培適応性を実証するとともに、作型の違いによる生産性・収益性を検証する。

展示内容

普通夜冷育苗（8月25日～9月5日処理）

ポット育苗（無処理）

○ 主な成果

- ・10a当たり収量は、普通夜冷育苗が7,510kgであったのに対し、ポット育苗は7,012kgで、普通夜冷育苗が約500kg多収となった（表1）。
- ・10a当たり販売金額も普通夜冷育苗が984万円で、ポット育苗の929万円よりも55万円多かった（表1）。
- ・とちあいかのB品の発生率は、特に11月が26.8%で最も高かった。期間を通しての発生率は10.9%であった（表2）

表1 月別収量（kg/10a）と販売金額

区		11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
普通夜冷育苗	収量(kg/10a)	659	939	1,316	1,379	1,574	1,068	576	7,510
	販売金額(万円)	142	166	170	174	188	100	45	984
ポット育苗	収量(kg/10a)	723	917	1,023	1,274	1,532	966	576	7,012
	販売金額(万円)	156	162	132	161	183	90	45	929

表2 とちあいかのB品発生率

とちあいか	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	合計
収量合計(kg)	691	928	1,169	1,326	1,553	1,017	575	7,260
うち、B(kg)	185	92	68	140	172	103	31	792
B品割合(%)	26.8	9.9	5.8	10.6	11.1	10.1	5.4	10.9

○ 今後の方向性

- ・初期生育が旺盛になると先つまり果、先白果、先青果などの障害果の発生が多くなることから、障害果の軽減化対策が必要である。

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：上三川町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315